

NIMBY施設をめぐる住民説明会の雰囲気が 住民の協議参加意欲に与える影響

奥山 智天¹・青木 俊明²

¹非会員 東北大学 文学部 (〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27番1号)
E-mail: tomotaka.okuyama.t7@dc.tohoku.ac.jp

²正会員 東北大学教授 国際文化研究科 (〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41)
E-mail: toshiaki.aoki.a1@tohoku.ac.jp

NIMBY問題の解決には、住民の積極的な協議参加が必要である。住民の参加意欲に影響を与える要因は複数考えられるが、説明会の雰囲気の影響を検討した研究は少ない。実際の説明会では、しばしば怒号飛び交う荒れた議論となることがあり、こうした雰囲気の影響を検討することは重要である。そこで本研究では、説明会の雰囲気が住民の協議参加意欲に与える影響を検討した。

分析の結果、雰囲気の良い場合と悪い場合で参加意欲の形成構造図が異なることが示唆された。雰囲気が良い場合は、リスク感が関心を媒介して参加意欲を高めることが明らかとなった。一方、雰囲気が悪い場合は、関心が参加意欲を高める効果は限定的であり、損失感と手続き的公正感が参加意欲を高め、精神的面倒さが参加意欲を低下させることが明らかとなった。

Key Words : NIMBY facilities, consensus building, atmosphere, rational choice, citizen participation

1. 背景と目的

ゴミ処理場などに代表されるNIMBY (Not In My Back Yard)施設は、社会的必要性の高さゆえ、必要性は認められやすい。しかし、自地域への立地を巡っては住民が強く反対し、地域紛争が生じることが少なくない。このような地域紛争には「社会的コンフリクト」と「社会的ジレンマ」が内在する¹⁾。

社会的コンフリクトとは、施設から利益を得る受益者と不利益を被る受苦者が異なるために生じる、両者の対立を指す。一方、社会的ジレンマは、受益者と受苦者が協力か非協力を選ぶ状態を指す。NIMBY問題では、受苦者は建設に賛成（協力）するより、反対（非協力）した方が、私的利益が高くなる。受益者も、受苦者への補償を行う（協力）より、行わない（非協力）方が、私的利益が高くなる。両者が非協力を選択するため、合意形成は困難になる。

NIMBY施設の合意形成問題の解決にむけては、手続き的公正が重要になる。例えば、Wolsink (2000)は、自発的な議論参加によって促される“公正に基づく住民と行政の信頼関係の重要性”を指摘している²⁾。

信頼関係の構築には、十分な議論と説明の場が必要である。しかし、実際の住民協議では、一部の参加者によ

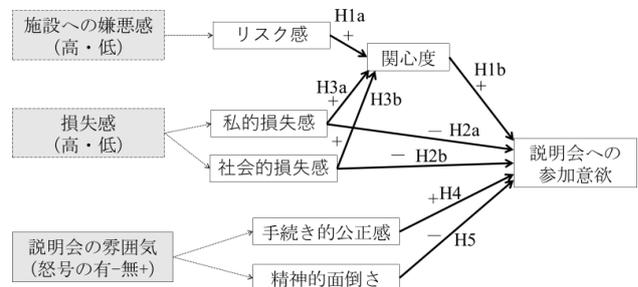


図-1 参加意欲形成の予測図

る罵詈雑言のために「冷静な議論」が難しくなる。議論参加の動機づけは複数考えられるが、このような「説明会の雰囲気」が協議への参加意欲に与える影響を検討した研究は行われていない。そこで、本研究では、①説明会における怒号の有無（雰囲気の良さ）が住民の議論参加意欲に与える影響と、②その影響過程を明らかにすることを目的とする。

2. 仮説

予測される参加意欲の形成過程を図-1に示す。グレーで着色された変数は操作変数である。まず、「リスク

感」は「関心度」を媒介して参加意欲を高めると予測した(H1a, H1b)。また、「私的損失感」「社会的損失感」は、施設建設による利益が低いため、参加意欲を低下させるが(H2a, H2b)、「関心度」を媒介して参加意欲を高めると予測した(H3a, H3b, H1b)。さらに、「手続き的公正感」は参加意欲を高め(H4)、「精神的面倒さ」は参加意欲を低下させると予測した(H5)。

3. 方法

(1) 実験デザインと実験参加者

本研究では、先行研究³⁾ですでに報告されている「施設への嫌悪感」と「損失感」に加え、「説明会の雰囲気」が議論への参加意欲に与える影響を検討した。したがって、『施設への嫌悪感(高・低)』×『損失感(高・低)』×『説明会の雰囲気(良・悪)』の2×2×2の要因配置実験をWEB上で実施した。WEB調査会社を通して、一般社会人240名(30名×8条件)が参加した。

(2) 手続き

実験参加者は、高レベル放射性廃棄物処分場(高嫌悪感条件)、またはゴミ焼却施設(低嫌悪感条件)が建設されるかもしれない状況の説明を受ける。その際、施設の建設地は実験参加者の暮らす地域(低損失感条件)、または実験参加者の隣町(高損失感条件)とする。実験参加者の暮らす地域に施設が建設される際に低損失感になる理由は、建設地域にはインフラや補助金が供与されるので、周辺地域に比べて損失感が低下すると推察されるためである。その後、実験参加者は、このNIMBY施設の建設をめぐる冷静な議論場面(雰囲気良条件)、または怒号が飛び交う議論場面(雰囲気悪条件)の1分程度の音声と静止画を視聴する。最後に、実験参加者は、質問紙に回答する。

4. 結果

(1) 操作チェック

『説明会の雰囲気(良・悪)』『施設への嫌悪感(高・低)』『損失感(高・低)』を独立変数、「雰囲気の良いさ」「施設への嫌悪感」「損失感」をそれぞれの従属変数として、一元配置分散分析を行った。その結果、『説明会の雰囲気』の操作は機能していたが($F(1,238) = 42.00, p < .001$)、『施設への嫌悪感』と『損失感』の操作は機能していなかった(嫌悪感 $F(1,238) = 1.21, n.s.$; 損失感 $F(1,238) = 0.17, n.s.$)。

表-1 参加意欲を予測する変数

	β	t	p
C_損失感	.539	3.632	.000
C_雰囲気の良さ	.910	4.919	.000
C_雰囲気の良さ×損失感	-.131	-3.142	.002
C_関心度	.314	5.255	.000
R^2	0.306		

表-2 損失感が参加意欲に与える影響

	雰囲気	傾き	t	p
雰囲気_悪	-1.3369	.4588	5.4528	.0000
雰囲気_平均	.0000	.2556	3.4288	.0007
雰囲気_良	1.3369	.0525	0.5102	.6104

(2) 雰囲気と損失感の交互作用

重回帰分析の結果、「雰囲気の良いさ」「損失感」「雰囲気の良さ×損失感」「関心度」が有意に「参加意欲」を高めることが明らかになった(表-1)。すなわち、「参加意欲」に対する「雰囲気の良いさ」と「損失感」の交互作用が示唆された。なお、表-1の“C_”は独立変数を中心化して用いたことを示す。

(3) 雰囲気と損失感の交互作用の詳細

雰囲気と損失感の交互作用をより詳細に検討するため、「参加意欲」を従属変数、「損失感」を独立変数、「雰囲気の良いさ」を調整変数として単純傾斜分析を行った。その結果、雰囲気が平均または悪い場合(「雰囲気の良いさ」= M-1SDまたは M)、「損失感」は「参加意欲」を有意に高めることが分かった(表-2)。一方、雰囲気が良い場合(「雰囲気の良いさ」= M+1SD)、「損失感」は「参加意欲」に影響を与えないことが明らかになった。

(4) 参加意欲形成構造の全体像

参加意欲形成の全体像を明らかにするため、共分散構造分析を行った。その結果、雰囲気の良いし悪しで異なる参加意欲形成の構造図が示唆された(雰囲気良:図-2、雰囲気悪:図-3)。なお、この構造図のモデル適合は、 $\chi^2 = 93.83, p < .001, GFI = .909, CFI = .910, RMSEA = .105$ であり、良好な適合度を得た。

(5) 雰囲気の良いし悪しによる参加意欲形成構造の比較

最後に、雰囲気の良い場合(図-2)と雰囲気の良い場合(図-3)で、どのパス係数に有意差があるかを検討するために多母集団同時分析を行った。その結果、「関心度」→「参加意欲」($W2: Z = -3.45, p < .001$)、「損失感」→「参加意欲」($W6: Z = 2.96, p < .01$)、「手続き的公正感」→「参加意欲」($W8: Z = 2.21, p < .05$)の3つのパスにおいて有意差が見られた(図-4)。

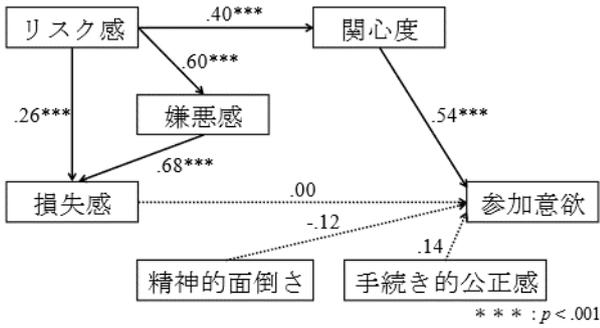


図-2 参加意欲の形成構造図_雰囲気良

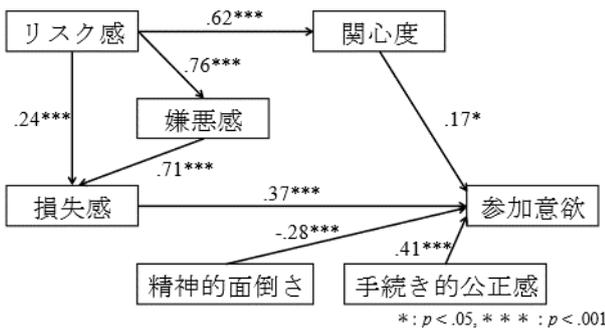


図-3 参加意欲の形成構造図_雰囲気悪

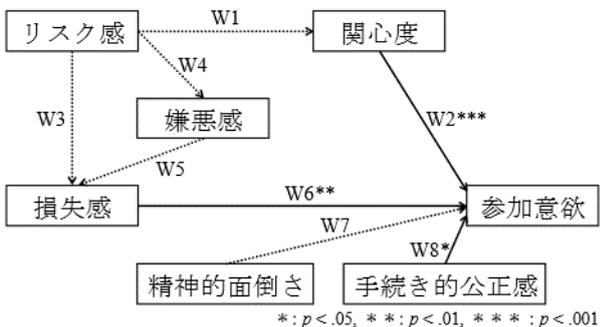


図4 雰囲気の良し悪しによるパス係数の比較

5. 考察

本研究では次の二点が明らかとなった。

第一に、雰囲気が悪い場合は良い場合に比べて参加意欲が有意に低下した。多くの住民が議論に参加するためには、冷静な議論を行うことが重要であると示唆された。

第二に、雰囲気が良い場合は関心度が参加意欲を高める一方、雰囲気が悪い場合は、関心度に加えて損失感と手続き的公正感も参加意欲を高め、精神的面倒さは参加意欲を低下させた。冷静な議論が成立している場合は、住民にNIMBY施設のリスクを適切に説明し、当事者意識を高めることが重要である。一方、荒れた議論となった場合は、きちんと議論の場を収めて適切な会の運営を住民に実感させつつ、施設の建設による損失を適切に住民に伝えることの重要性が示唆された。

参考文献

- 1) 青木俊明 (2016). 地域紛争と公正 大淵憲一(監修) 紛争・暴力・公正の心理学 (pp.174-189) 北大路書房本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.
- 2) Wolsink, M. (2000). Wind power and the NIMBY-myth: institutional capacity and the limited significance of public support. *Renewable Energy* 21 (1), 49-64.
- 3) Guo, B. & Li, Kunji. (2020). Psychosocial pathways of collective action participation in NIMBY conflict: A regulated double mediation model. *International Journal of Electrical Engineering & Education*.0(0), 1-18.
- 4) Wolsink, M. & Devilee, J. (2009). The motives for accepting or rejecting waste infrastructure facilities. Shifting the focus from the planners' perspective to fairness and community commitment. *Journal of Environmental Planning and Management* 52 (2), 217-236.

?

The Impact of atmosphere in residents' councils about NIMBY construction on citizen participation

Tomotaka OKUYAMA & Toshiaki AOKI

To solve NIMBY problems it is important that many residents participate in councils. Although there are many possible factors, which affect citizen participation, few research about “atmosphere” have been conducted. In some councils, some participants roar in rage. Therefore, it is important to discuss the effect of atmosphere. In this paper, we examined the effect of residents' council on citizen participation.

Analysis showed differences of motivation construction between the good atmosphere condition and the bad atmosphere condition. Whereas in the good atmosphere (no bellow) condition, “risk” enhances motivation through a mediator, “concern”, in the bad atmosphere (with bellow) condition, the effect of concern is limited, “sense of loss” and “procedural justice” enhance motivation, and “mental troublesomeness” decreases motivation.